

科目名	計画学基礎 Infrastructure Planning			担当教員	宮崎 耕輔			
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	13134021	単位区分	履修単位	
学習目標	都市計画や地域計画の計画立案作業を実践する上で、必要となる基本的な知識や技術を学習する。具体的には、土木計画学における計画立案手法、都市計画や地域計画に関わる基本的事項について理解をする。							
進め方	スライドや板書を中心に講義を行うが、適宜、プリントを配布するなどし、理解を深める。またレポートをはじめとする演習課題によって知識の定着を図る。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. ガイダンス(2) (1) 授業の進め方 (2) 計画の意義と計画学の考え方 2. 計画の体制(12) (1) 計画の目的論と目標設定 (2) 現象分析 (3) 最適化手法 (4) 評価 ----- [前期中間試験](2)			<ul style="list-style-type: none"> ・計画の意義と計画学の考え方を理解している。 ・計画の目的論と目標設定を理解している。 ・現象分析方法について理解している。 ・重回帰分析について理解している。 ・線形計画法について理解している。 ・評価手法について理解している。 (B-2)「専門分野（土木工学）」に関連する科目である。				
	3. 国土計画(4) (1) 全国総合開発計画 (2) 国土形成計画 4. 都市計画の歴史と都市計画の思想(12) (1) 古代都市 (2) 中世の都市 (3) 近世から近代への都市建設 (4) 近代から現代への諸外国の都市計画と計画思想 (5) わが国における近代以後の都市計画 前期末試験			<ul style="list-style-type: none"> ・全国総合開発計画について、その変遷と系譜について理解している。 ・国土形成計画について、その変遷と系譜について理解している。 ・諸外国の地域計画について理解している。 ・近代都市計画（西欧と日本）について理解している。 ・近代都市の特徴と課題について理解している。 ・近代都市計画の思想および理念と実際について理解している。 (B-2)「専門分野（土木工学）」に関連する科目である。				
	5. 近代都市計画の理論と実際(6) (1) 近代都市計画の理念 (2) わが国の都市計画の仕組み (3) 都市計画の費用負担と財政 6. 土地利用計画(8) (1) 土地利用計画とマスタープラン (2) 都市発展の理論と実際 (3) 都市計画マスタープラン (4) 地域性 ----- [後期中間試験](2)			<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法における都市施設・開発について説明できる。 ・都市計画制限と開発許可について理解している。 ・土地利用計画について理解している。 ・総合計画とマスタープランについて理解している。 ・都市計画区域の区域区分と用途地域について理解している。 ・特別な地区・区域の設定について理解している。 ・用途地域の用途規制（建ぺい率・容積率・用途規制）について理解している。 (B-2)「専門分野（土木工学）」に関連する科目である。				
	7. 地区計画(11) (1) 地区計画の目的と沿革 (2) 地区計画の要点 (3) 各種の地区計画 後期末試験 試験返却(1)			<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法における地区区域について説明できる。 (B-2)「専門分野（土木工学）」に関連する科目である。				
	前期末試験							
	後期末試験							
	試験返却(1)							
	評価方法	4回の定期試験を80%、演習や課題への取り組みとその内容を20%で評価する。 各項目1～7の重みは、12.5%、12.5%、12.5%、12.5%、12.5%、12.5%、25%とする。						
	履修要件	特になし						
関連科目	計画学基礎（4年）			地域整備学（5年） 建設環境工学演習Ⅲ（5年）				
教材	配布プリント、スライド 教科書：加藤晃，竹内伝史：新・都市計画概論 改訂2版，共立出版株式会社 参考書：川上 光彦(2008)：都市計画，森北出版 ほか，都市計画，土木計画に関する教科書 秋山 孝正，上田 孝行(2008)：すぐわかる計画数学 第8版，株式会社コロナ社 など							
備考								